

# 地域・家庭との結びつきを

— 全校美術展をとおして —

附属小学校・教諭

山室 光生

## 全校の子どもたちの作品を 校内に展示して

『幸せ、おもちを食べるとき』(左上)・『一人で年末の大掃除』・『がんばって作ったストリートティ』・『ボールがくるぞ!少年野球の試合で』(左中)・『王手!おじいちゃんとの将棋』などなど。地域や家庭での暮らしに主題を得て5年生が描いた作品を見ると、「子どもたちはこんなことを感じながら暮らしているのかあ」「こんな考えを持つんだ」「大人なら見過ごしてしまいそうな出来事をととでも瑞々しく受けとめるなあ」と、子どもたちの地域・家庭での暮らしがうんと身近に感じられます。



『幸せ、おもちを食べるとき』(5年男子)



『ボールがくるぞ!少年野球の試合で』(5年女子)

全校美術展は、年に一度、全校児童の作品を附属小学校の多目的スペースに展示するもので、今年で37回を数えました。土・日も開場しますから、「ずいぶんご無沙汰して…」と父方母方双方のお爺ちゃんたちが本校児童を囲んで挨拶を交わされていたり、近所の老人介護施設から鑑賞に来てくださった方もいます。自分の絵を大勢の人たちに見てもらい、そして褒めてもらうことは、子どもたちにとって他に代えがたい喜びであり、励みとなります。

でも、◇子どもたちを社会的家庭的背景から捉え、休日・放課後の過ごし方と学力・体力の関係を考察すること、◇地域の課題を教材にとりこみ、地域の教育力との共同を図ることを実践的課題として取り組んできました。

美術という文化は、もとよりコミュニケーションをその営みに内在させ、しかも単なる伝達ではない、形に込めた意味を読みとった者同士の間人的つながりを生み出します。子どもに関わる惨事が後を絶たないとき、豊かな文化をとおして人と人とが人間らしく結びつき合う学校となることを強く願っています。



老人介護施設からも鑑賞に